



新編事文類聚翰墨全書卷之五

集

表箋門

賀表

賀表

中書省賀正表新式

王翰林介甫

三陽開泰春不逮於郊迎四海會同禮無先於朝賀中賀欽惟
窮修玄默總攬樞綱孝心隆福於慈宮德皇推恩於藩邸宗親
順附邊障清寧歲晏抵於豐稔詔仍頒於寬大仁風解凍旭日
舒長開闢闔之九重執玉帛者方國臣叨在華省幸際明時披
陞高班拜 天顏之有喜椒觴進酒祝 聖壽之無疆

行中書省賀正表

子為天統式陳元會之儀乃見壽星恭上萬年之祝福崇九鼎
歡溢八埏臣某等中賀欽惟 盛德日新至仁春育功光聖
祖致象譯之來庭禮重慈闈護龍樓之問寢相賤隆慶調之寄

德音博寬大之恩寶曆誕頌瑤圖有永臣等仰憑聖力分治省垣身江湖心朝廷惟求報稱壽登寶國磐石願效對揚

廉訪司賀正表

大德紀年光啓乾家之運三陽肇序式逢泰長之身氣轉洪鈞歡騰諸夏中賀欽惟曰肅曰乂乃聖乃神居正躰元得其位得其壽授時布治作之君作之師萬象皆春一人有慶臣等職情南海心拱北辰新風憲之紀綱欽遵鳳詔瞻天威而咫尺如對龍顏

宣慰司賀正表

青陽肇序轉三氣之洪鈞丹宸視朝開九重之黃道至於嶺表靡不嵩呼中賀欽惟神聖文武聰明睿智昊天欽若頌堯曆以授時正月始和認周邦而布治茂迎脩景萬萬辰臣等身寓南方心馳北闕恪守布宣之職俯罄愚誠奉行寬大之書庶敷德意

總管府賀正表

月正元日喜鳳曆之頌春天子萬年衍鴻圖而造夏和董朝野光被乾坤中賀欽惟御眾以寬安民則惠循行堯道惟德威惟德明董正周官曰廉能曰廉善式開泰運共慶履端臣等叨守穗城弛情楓陛竊班阻觀遙瞻北闕之尊虎拜深仰祝南山之壽

行省賀太后正表

天開昌曆轉二氣之洪鈞春近慈闈肅千官之元會壽同筮畫歡滿乾坤臣某等中賀欽惟性稟懿淵神怡冲澹誕敷聖政益隆女堯舜之名茂著徽音共仰今姜任之盛肇迎穀日式衍真符臣某等仰念東朝遠分西省封人三祝唯伸拜蹈之恭太后万年願上怡愉之頌

又

石敏若

春入東郊協四方之正朔星環北極拜萬國之衣冠盛禮傳聞

昔天交慶中賀恭惟 德禹之服行堯之仁陰陽和而寒暑
平法度彰而禮樂著式當穀日寅奉上儀燎設廣庭香飄合殿
羽林神策高瞻帝座之尊瀚海陰山同上聖人之壽百格居支
郡阻造路朝班層授民已應飛灰之慶管稱觴望闕徒傾向日
之葵心

賀正表 以下後集式

趙德莊

帝出乎震載更堯曆之新斗合於寅允協夏正之建慶從上日
祥應昌期中賀恭惟 道妙弥綸誠參化育璇璣密運天地
節而四時成玉燭均調陰陽和而万物得干戈載戢禮樂備具
皇極錫民方順發生之令大約播物咸歸仁壽之途臣職在守
符神馳魏闕接千歲之統親逢有道之長奉九行之觴遙祝太
后之福

冬節 賀冬表

呂伯恭

義取正長曆既傳於大舜曆書畫壺雲咸望於帝堯凡厥含生

育為善頌恭惟 妙參二極高蹈自主游物之初坐致滋萌
之景御氣之始默符身長之陽順体休辰脩禮絕毀臣等俯借
羣品仰跋大清本本元元起數再推於一復又父子子並明永
協於兩難

張欽夫

律應中声候迎長景宜人神之贊喜輔宗祐以備休中賀恭惟
重堯之華行禹之智龜後以尊上帝受福而錫庶民周典是尊
待彼陰陽之定義爰默玩見夫天地之心臣叨奉藩條阻陪班
綴天子万壽敢忘端美之誠王者二微願廣好生之德

王介甫

氣復初陽茂對物資身之始暑移北陸寅迎日至之長中賀恭惟
道与时行化猶天運嗣无疆而復位建有極以官民甫臨陽至
之期大襲福祚之慶臣息谷居里病阻造庭雖誓壽以无階頌
馳心而曷旣

又

汪彦章

日官底日于朝言陽來復天子承天之意与物咸亨爰修亞歲之儀懋履對時之慶中賀恭惟誠參化育幽贊神明朔復朔而謹治曆之端刑无刑而体好生之德推步舒長之景數得周正道送供奉之班心存魏闕

·朔旦賀朔旦表正月

蒼祇受取宝冊更端斗柄建而環壤皆春庭燎明而叙朝允肅中賀欽惟体元居正威用顯仁推至信以合時保太和而庇俗中機鑿遠奉虛德以弘實祕祉來同侔健行而有裕臣叨分外祿限守列藩莫陪星拱以称觴徒效嵩呼而據頌祇歡悚恋倍万殊情

又二月

中和紀朔初言協辰擊幽鼓以宣陽奮韻雷而振蟄中賀欽惟燭明庶政慈濟禱群生時祀由於有莊神歡治於便裕介其豐祉

允致不寧而臣孽敢收拘遺類茲雖莫獲驚駭之序但傾驚蹙之誠祇仰宸闈精爽飛越

又三月

靈氣融春庶萌孽孽浮乘將修於元糗拂桐適應於嘉時伏惟躬撓乃機咸旨九德奉上昊而致繁居左个以敷和總集不祥允諧至治臣以格分事任莫副班朝徒歌蕩蕩之風聚整樓樓之懇

又四月

炎德司方正陽命朔風薰兮而發詠麥蔚若以摧芒恭惟盛大履尊盈成固業体高明而柔克迪淵默以霽靈察邁元猷不臻殊貺保天襟而允穆洽聖治以咸寧而臣職守連城心馳曉闕莫則影纓之列徒深抃嶽之誠欲頌亨嘉倍万悚欵

又五月

中暑宣和重離協盛雨濯枝而感霽滂根柢前以斯豐恭惟

執粹研幾顯仁熙志統萬邦而有謚敷五典以弘博慈茲化育
之辰允契高明之德臣以仰當天陛恒望垂條治九叙以同歌
趨三階而罔獲荷恩宴久存亦增勞

又六月

函禮命律學暑協時頒冰式攷於周儀沈李率彰於魏興中賀
恭惟 休元稽古秉正御邦敷五教而在實庇群倫而咸序
允懷靈願克迪鴻祥臣歛遠辰闡適叨藩守辨色莫陪於星班
傾心徒切於嵩呼

又七月

少昊肇秋亢陽幸今登周末而告終京師叔以薦嘉恭惟
端宸宅中揜機玩衆鄗帝闕而可大錫民極以保和天祉益新
聖慶斯茂臣以忝尸郡祿阻奉朝威祝彌億以惟慶望長安而
伊魄抃詠延企實乃常均

又八月

星杓建酉雲曲流商衡渠之昏刻平分華表之夕音互敬言共惟
淵默為聖清明在躬教以絜靜体元德以儉慈庇俗五紀協用
克彰葵首之勤百嘉備成庸迪順成之祉弥膺不貳誕保鴻名
臣以恪守藩條緬瞻魏觀但結存心之戀莫陪訓則之規

又九月

金祗協序霜華勝威休工爰攷於周經省斂聿符於夏諶恭惟
德昭可久功著咸亨總步驟於前猷洞希夷於至要尚敦冲挹
推奉靈光聿懷天祉之多式庇人倫之衆永為孚佑率迪熙康
臣以祗守郡條邈遠陞戰西序莫陪於就列中山徒切於存心

又十月

神頊執權郊祗順祀黨正率勞農之典風人詠納稼之期中賀
恭惟 維御乃邦熙明百志奉天時而允若荷靈祉以來同
高居靜淵慈保黔庶省歲之功允茂体元之德弥昭臣以幸易
藩封密隣圭甸望鬱葱之佳氣恭認堯茨陪鐸濟之清班尚遠

漢城破驚感恋風夕以之

又十一月

星昂正時律鍾推本雲麗霄而同色梅眉嚴以含祭中賀恭惟
端袞疑神外機觀運礼樂崇其醲化天地參其茂功介慶祉以
惟新保享基而弥大令辰收獲純貺允歸臣以濫假圭符跪瞻
高禁祇守作字之式阻趨辨色之朝就恋誠深倍万常品

又十二月

水行攸序月紀斯周奉方飾以順畋介死禧而脩楷抚清寧之
運播鴻鬯之猷恭已御邦對時育物化敦九有薄无外以安瀾
神輸百成祚惟明而合吉臣以恪修民取跪企聖威阻趨建礼
之朝徒結予年之恋

賀雪表

賀雪表

高侍郎謙白

同雲弥望布清灑以垂陰密雪應期協康年而呈瑞載途流詠
薄海騰歡恭惟 体御至神幹旋元化抚五辰而致順閱衆

用以咸宜致茲六出之祥來應一陽之候飛花剪水舞青二以
縈空亘陌連阡岭黃雲之若按臣承休天陞庇朕台司奉万壽
之觴慶祝延鴻之筭引七星之綬敢言燮理之功

又

東萊

皇極之主疇既叙於時寒累年之冬非先占於積雪續紛六幕
音肩九闈恭惟 綏靜真師財成元化嚴疑西北欽義氣以
方升疆理東南瞻同雲之已合瑞呈禹甸喜溢堯衢臣等幸際
昌辰欣逢休應授簡而居客右雖漸梁苑之詞為樂而与民同
請上齊宮之對

賀雨表

賀雨表

王禹偁

自秋以來時雨不降遇灾而懼至誠爰禱於上玄有感則通耳
澤忽垂於下土豐登有望朝野同懽恭惟 七政成齊五行
為質寅畏昊穹之命焦勞刑政之源昨妖慧告灾豐年失望宿
麥播而未茁旱雲垂而不霑 陛下夔爰斯牲偏走群望降庭

臣而決獄御便殿以錄囚御筆憐文乙夜引万方之罪請詞瀝
眼經旬祈五福之宮惟德動天而天不遠至誠感神而神受朕
向夕而月離于畢崇朝而雲上于天散絲偏洒於焦枯比羣重
與於耒耜豈止小康之兆將書大有之年堯眉舒八彩之誓免
貽臣辱舜樂復九成之韻大悅民心九在含生同知大賚臣為
霖寡術和鼎備貢方期冊免之文以寒燠調之各處台司而愈
愧荷聖感以深深

賀太陽不虧表

葛侍郎

官占常度前知陽照之當虧德動蒼旻俄見蝕分之不既清瑩
襲吉溥海騰歡欽惟道拜乾元功參離照撫浸明浸昌之
運得寅寅寅錢之宜惟圉月適戒於正陽而靈曜乃催於內壤
聖躬脩行天監諸休如月之初光尚全於半璧自天申貺福永
固於丕圖

賀甘露表

趙承之

盛德至矣燕及皇天零露濟兮震于珍物惟滋液終漉之富當
婣娟雙雁之嚴祉福者明見聞踊躍中賀欽惟秉執道妙
經綸政機垂拱視朝既每勤於中是宣和御殿不自逸於燕間
蓋雷声淵默之所以神亦文經武緯之由此出備列孝士侍從
之朕大集御府竒秘之書寫方丈於海中構廣寒於天上序協
而璚璣察氣和而玉燭調用感格於殊祥以發揮於嘉瑞初厭
渴而非露乍甘美以如飴每壤可游豈必待木蘭而後飲惟德
其物固知非仙掌所能承積稔之交影響如此而臣幸因官列
偶直殿左獲拱舜瞳粗識天顏之喜當書堯典愧無史筆之長

事文類聚翰墨全書卷之五

庚集

新編事文類聚翰墨全書卷之六

庚集

表牋門

謝表

謝受宣表以下新式

杜傳良

叙九功銘一德蓋一嘗相聞湯武之心眉八彩目重瞳又何必
 親見青純之面雖慈父弗蓄無益之子惟聖王能容不召之臣
 其誠皇誠恐頓首頓首恭惟陛下承五葉之宏規接千年之正
 統外雖嚴厲內實寬慈百王稽顙以來朝萬國傾心而聽命象
 乾坤之貴信有物皆生同日月之無私容光必照云々以至大
 業陰陽術數之家併收巫醫緇素之屬何人不閱笑說弗從衆
 微臣殫慮以竭誠皆陛下飽聞而厭道致蒙信使安所施為伏
 念臣材極斗筭器非瑚璉坐慙而害道竟碌碌而無成輒謀
 詩酒以自娛以致衣冠之不齒亦占儒籍稍異編氓既非六郡

之良又脫一墨之稅以為具屨尚忍過期况樗櫟之散材逼桑榆之晚景雖納言於求言之日當尽其忠奈入仕於致仕之年斷無此例如泛駕之馬終無可馭之方似脫韉之鷹豈有再馴之理業成朽木甘處下流固知兩齒以鷹揚足称絕代縱有一朝之豹變未免強顏負平生無用之虛名拊心良愧恐一日有乖於實用於國何裨但其隨人俯仰之勞遂有玩世滑稽之謗且盤饗勃宰尚得乘於人况偃寢棲遲敢高尚其事所以絕想立園之聘尚懷水土之恩大哉王言夫誰敢抗薄乎夫命柰尔不通幸逢聖世以粗安雖死布衣而不恨豈敢望白居易輒自都香山居士之名且姑比陸龜蒙願勅賜江湖散人之號

謝改州表

帝天廣覆舊邦驗民數之登侯社旁開新命首官僚之建山川頓為之改觀人事歡謂其更生中謝竊以渝在偏方出称樂土孫吳之時始創為新喻縣李唐之初嘗析置南吳州蓋歷朝之

沿革不常而百里之廣輪如昨其民畏刑而訟簡其士樂道而俗淳中更蕩析以離居未幾還定而安宅側聽南公之相語深惟先帝之至仁版圖既入於朕方戶口倍增於井牧若稽古典宜列中州茲蓋伏遇乾坤包涵父母爰育家四海而无外利万物而不遺謂四方五千戶之區惟天与祖之付我而三百六十官之屬曰吏以治而得民遂令外服之賤微獲備中朝之遴選某等曾逢聖代鼓舞皇恩既登進於吏民爰奉宣於德化服休服采願同乃萬而一心于蕃于宣敢祝吾君之万壽

謝表

狀元謝

皇帝表以下舊式

黃屋臨軒建旆清問丹墀唱第咸錫殊科茲為士子之榮益顯文風之振中謝切以真人御極聖季造微屈至尊而延四方之豪講正道而發千載之祕略去細故招徠讜言方驚大對之難馴敢意謙恩之均及伏念臣等久蒙樂育溢与觀光昧通經明道之方乏為史綴文之識况礼樂之制作何足以知賴帝王之

憲章乃所願多... 懇請... 於紙上... 英俊之選中... 俾釋布... 悉加紳笏... 蓋伏遇 皇帝陛下... 聖由天縱... 善與人同... 明詔... 興言... 溫修於故事... 所庭親... 策... 有得於... 奇才... 勤... 旋... 之... 觀... 采... 芻蕘... 之... 踐... 愧... 無... 削... 切... 例... 辱... 甄... 收... 臣... 等... 敢... 不... 思... 勵... 赤... 心... 愈... 堅... 素... 履... 淵... 源... 所... 自... 幸... 親... 見... 聖... 人... 之... 為... 師... 夙... 夜... 歷... 歷... 忘... 誓... 必... 以... 忠... 義... 而... 相... 勉

狀元謝賜宴表

盛勛

楓宸賜第... 既... 優... 恩... 深... 宴... 均... 慈... 載... 叨... 盛... 禮... 寵... 光... 甚... 隆... 遜... 避... 靡... 容... 中... 謝... 伏... 念... 臣... 等... 飽... 亨... 未... 豐... 醉... 經... 尚... 淺... 心... 雖... 禮... 義... 之... 悅... 家... 本... 簞... 瓢... 之... 微... 又... 困... 蓬... 蓋... 烏... 覩... 大... 官... 之... 膳... 音... 聞... 弦... 誦... 詎... 聆... 雅... 樂... 之... 音... 曾... 何... 分... 寸... 之... 長... 有... 茲... 日... 著... 之... 遇... 茲... 蓋... 伏... 遇 皇帝陛下... 尊... 崇... 儒... 孝... 獎... 厲... 人... 才... 念... 其... 奮... 亦... 於... 明... 時... 豈... 謂... 家... 食... 謂... 不... 觀... 光... 於... 上... 國... 肆... 秩... 賓... 筵... 俎... 且... 生... 春... 布... 章... 增... 氣... 臣... 等... 敢... 不... 益... 充... 所... 養... 思... 遠... 厥... 謀... 誦... 嘉... 魚... 之... 卒... 章... 已... 仰... 見... 與... 賓... 之... 樂... 介... 既... 醉... 之... 景... 福... 其... 敢... 忘... 報... 上... 之... 誠

狀元謝賜花表

商飛英

在公載... 茲... 事... 繼... 瓊... 林... 剪... 綵... 為... 花... 賜... 來... 金... 闕... 祗... 承... 優... 渥... 深... 切... 兢... 惶... 中... 謝... 伏... 念... 臣... 等... 蓬... 車... 餘... 生... 布... 章... 賤... 士... 久... 仰... 葵... 於... 日... 下... 溢... 得... 桂... 於... 雲... 間... 學... 植... 鮮... 勤... 豈... 搗... 碎... 之... 是... 麗... 儒... 冠... 多... 謨... 今... 載... 寵... 以... 知... 榮... 茲... 蓋... 伏... 遇 皇帝陛下... 道... 妙... 裁... 成... 化... 全... 長... 育... 樂... 英... 才... 之... 並... 進... 示... 禮... 意... 之... 有... 加... 澤... 同... 湛... 露... 重... 物... 有... 為... 春... 之... 慶... 輝... 光... 下... 飾... 桂... 樹... 生... 華... 追... 琢... 成... 章... 已... 契... 洪... 鈞... 之... 妙... 陽... 和... 回... 暖... 寧... 容... 矣... 谷... 之... 彫

謝除左相表

荆公

貳... 正... 中... 臺... 兼... 官... 左... 省... 推... 時... 遴... 選... 蓋... 當... 久... 曠... 而... 非... 除... 忽... 此... 叨... 居... 願... 豈... 微... 勞... 之... 可... 稱... 陪... 敷... 厥... 邑... 敷... 告... 于... 廷... 是... 皆... 至... 榮... 難... 以... 虛... 辱... 臣... 其... 中... 謝... 切... 以... 經... 術... 造... 士... 實... 始... 盛... 王... 之... 時... 為... 說... 誣... 民... 是... 為... 衰... 世... 之... 俗... 蓋... 上... 无... 躬... 教... 立... 道... 之... 明... 辟... 則... 下... 有... 私... 幸... 亂... 治... 之... 姦... 氓... 然... 孔... 氏... 以... 竊... 臣... 而... 与... 未... 喪... 之... 文... 孟... 子... 以... 游... 士... 而... 承... 繼... 聖... 異... 端... 雖... 作... 精... 義... 尚... 存... 遠... 更... 煨... 燼... 之... 灾... 遂... 失... 源... 流... 之... 正... 章... 句... 之... 文... 勝... 質... 傳... 注... 之... 博... 獨... 心... 此... 淫... 詞... 詭... 行... 之... 所... 由... 昌... 而... 妙... 道... 至... 言... 之... 所... 為... 隱... 盜... 生... 上... 主

能祐下民成能協乎人謀將聖出乎天縱作於心而害事放升
我殫通於道以之或疑登既眾尚懼朕率之黎獻未昭典藉之群
疑乃集師儒具論科拍繕事來上復典俯加臣趣探井高知識
尤淺少嘗蒙苦伯為喪氏之吟晚更耄衰豈免輪人之議初脩
使令之之即知稱愜之難敢意諷恩獨當殊獎此蓋伏遇○○
陛下以化民成俗為事故急在誨人以尊德崇道為懷故易於
索爵因忘固陋特假寵光祇服訓詞深推報禮雖无博學對揚
稽古之鴻名庶以雅言助廣右文之美化

謝除樞密表

宋子京

近叨恩制俾正樞司伏閣上言願還于成命斷章催報特枉於
慈音固謙哀請冒居何幸中謝切念臣樗蒲材散培塿地卑獲
對聖朝蒙賜劇任敵王所愾既會於復兵積日之勞何從而塞
質共惟朕復深諒由衷斯諫斯獻則罕嘗入告字求子取則不
議改瑕中先帝之舊人貳禁庭之幾事屬國考室兼議傷功貳

寢乃安頤成並享紀年肆首捨爵計功首膺无虧之言已渙一
宣之數借夫因典布在人言匪謂天眷遂加寵章尤渥殊論辨
序超擢上游躋薄新於危心隔蓋高之善聽光華異等震林表
懷二接諮詠未識主臣之對乃幾外事曷臻密靖之風乘是泰
來赫然虛受此蓋伏遇皇太后陛下道敷善養人不備來貸衛
館之孰何取子頰之謹質持捐厚礼期責寸長頰亦戀賞以不
貲誓捐軀而有斷

謝除參政表

歐陽公

贊貳國鈞參聞廣論謂宜不次而巽與得非常之材乃以序正
俾之承之誤恩過被訴該察從中謝伏念臣少迫賤貧偶勤孝
問儒者博而寡要况匪多聞文章世之空言豈能適用徒以早
違亨嘉之會驟蒙擢之私叨言語侍從之流逮今踰紀玷出
納樞機之任初之可稱幸先彈理之未加毋欲遂忽而引去敢
期睿眷俾与政機優以寵章進其爵秩望非意及榮不與慶并此

蓋伏遇○○陛下堯德聰明禹躬勤儉博求俊乂以濟治康謂
臣既朴且愚必能循於忠謹雖庸而懦尚可策其疲駑猥以備
貢遂茲冒寵敢不益堅素守自勉不強推殫犬馬之勞上答乾
坤之造

謝除吏部尚書表

顏師魯

吏曹兼組僅輸累月之勞帝矣疏因遠陟三銜之首居然就職
揚尔懷斯臣其中謝伏念臣初元適時可用之才徒有泥古不
通之志握從臣之橐俯仰四方使老上之庭往來方里勤賢勞
之何有荷聖眷之過優既叨小宰之除復攝家鄉之而臣技窮
能薄景百年侵府騰告老之章未動蓋高之聽敢圖簡記反使
甄陞維天官分典於銓衡而帝伯實提其綱領須嘗兼掌猶懼
弗勝故命顯官益厲非据併錫身章之寵仍頒庶乘之珍願異
數之駢蕃將何功而稱榮茲蓋恭遇○○陛下規模天大睿智
日瞻聖臨博覽於群工禮遇尤先於近列知臣朴忠有守矣按
不改於凋年於臣氣力未衰老馬或諳於故道乃頒茂渥猥及
微踪臣謹當仰体隆私益堅晚節壯心雖在詎敢受於察捐來
日无多終願祈求於閑退

謝除礼部尚書表

王藺

外間暫分遠端歸於駟召听朝甫對即擢長於春官席寵逾涯
抚躬增懼中謝伏念臣某奮身孤遠逢世休明仕不因入終始
皆蒙於睿簡才非適用險夷但竭於愚忠去國倚庠起家臨鎮
豹尾隔四年之從麟符專一道之權闡田里之嘆愁具知疾苦
頌條詔之寬大方究抚綏敢圖宣室之具恩誤玷中堂之率屬
跡陪鸞鷲恍疑夢寐之回履上星辰頓竟依乘之近被服章之
安吉弓駒繮之閑馳茶滌併加微躬難稱茲蓋伏遇○○陛下
寬聰建極知哲能官聚英雋以尊朝蓋為本根之慮必首清而
典禮不徒玉帛之云退省迂儒曷膺妙選臣敢不益堅素節仰
報隆知願維斗喉舌之司當謹出納如稽古礼文之事敢廢討論

謝除刑部尚書表

歐陽公

朕清書與實為儒者之榮望峻夫臺仍忝刑官之重內循謫導
 仰玷光輝中謝伏念臣某稟質于愚粗知業履因時幸會遂切
 寵靈尤於貴補闕之勤常陪法從非大冊高文之手久則翰林
 濫綴宰寮俾聞國論何三朝之眷遇每察懦忠幸四海之清平
 得容施祿居滿盈而不戒積災曩以自貶屬聖統之嗣興赫皇
 明而繼照中謝詔服已大釋於群疑危跡保全俾不虧於素守
 犬馬合思於效報乘掄柰迫於衰遲屢貢懇私上干聰睿遂蒙
 開允俾解繁機然而晚節鎗生本朝避寵請益更合榮
 被優渥之非常但安就而失措此蓋伏遇○○陛下聖神御極
 亨育推仁閱孤拙之勢危无容自立謂疲駑之力竭誰貴遠圖
 曲軫至慈俯從誠請仍於舊物特示殊恩頃非木石之頑宜識
 乾坤之造頌然素領雖強於筋骸較若州心猶自期於塵露路

謝除戶部侍郎表

蘇子由

掖垣清朗奉鈔數以媿安民部劇繁以金谷而為戰事非素孝
 命不獲辭中謝伏念臣某起於南裔曾未拜替擢在近班訖无
 少補開口論事適宸心延納之初引筆代言非書命縱橫之際
 切祿而已功何足云計日以言時亦未幾方自愛於汰去豈復
 意於超升此蓋伏遇太皇太后陛下仁聖无為靜淵照物由閱
 工師之衆灼知情偽之端察臣朴愚於孤遠才雖未能以應
 務性則不喜以為邪試之劇曹異其來效然臣觀當今右部之
 政正值昔日新法之餘力已寡要於殘荒繇役患於戶少事既難
 辨法當通方尚賴聖筭之明稍寬民力之僉臣之疎拙徒自勉
 強苟少緩于瘡痍不圖報之力一

謝除工部侍郎表

秦少游

入司大僕已漸稱效之虛進貳及官尤愧選倫之誤顧叨塵之
 已甚念辭避之非容承命惟驚玩躬以懼中謝伏念臣身承家
 訓世受國恩荷先朝特達之知蒙一聖生成之賜左選都司之

要既獲備員內閣秘殿之嚴更容通籍以至外專兩部內閣三
卿徒為歲月之淹莫見事功之效方虞罷黜退伏於田疇敢意
推迂拙陪於法從材微任過因重報難此蓋伏遇○○陛下盛
德海涵至仁天覆以臣父某歷四朝而被遇登三仕以退居知
父子至情欲慰桑榆之景念君臣難遇遂收管削之才豈惟一
散族之榮時乃百執事之勸臣敢不鞭策警寤淬厲鈍頑以捐
軀報國之誠為竭力爭親之義

謝除翰林李士表

并公

臣聞人臣之事主患在不知孝術而居寵有冒昧之心人主之
畜臣患在不察名實而聽言先惻怛之意此有天下國家者以
所難於任使而有道德者亦所以難於進取也李士表親地要
而以討論訕議為官非夫遠足以知先王近足以見當山忠厚
篤實廉耻之操足以各諷而不疑草創灑色文章之才足以附
達而无負則在此位為无以称如臣不肖涉苗未優初无牽三

過人之才徒有區區自守之善以至將順建明之大体則或踈
闊淺陋而不知加以憂傷病疾以弃閭里辭命之習无穢積年
躡勉一州以為忝冒禁之罪豈所堪在伏惟○○陛下躬聖德
承聖緒於群臣賢不已知考慎而於謀也又能虛己以聽之故
聰明睿智神武之實已見於行事日月未久而天下翹首企踵
以望唐虞成周之太平臣於此時實被收召所以許國義當如
何敢不磨礪淬濯已衰之心紬繹温尋以廢之享上以備顧問
之所及下以供職司之所守

謝宣召入翰林表

歐陽公

使車入里君命在門閭巷驚傳豈識朝廷之故事縉紳竦嘆以
為儒者之至榮在臣之愚何以堪此中謝切以文章之任自古
非輕待遇寵榮至有私人之目詢謀獻納因加內相之名恩既
異於常倫人愈難於称職伏念臣器非宏遠識匪該明事不通
古今之宜材不適方真之用久叨塵於侍從曾莫著於勞能而

自出守外藩近遭家禍苟存餘喘復齒周行風波流落者十年
天日再瞻於雙闕進退之際已蕭颯於霜毛慰勞有加賜閱於
於玉色形神若此志意可知身已分於早衰心敢萌於希進加
以羈危之迹仇嫉交攻進退動繫於群言論議多煩於睿聽雖
復載之造每賜保全而孤寔偷安常思引去敢謂伏蒙尊號
○陛下俯矜旧物曲軫宸慈因內署之闕真俾備官而承乏之臣
敢不勉尋旧章益勵前修感遺簪未弃之仁竭駑馬已疲之力
庶伸薄効少答鴻恩

謝除帥表

東坡

兵民重寄本禦侮以折衝疆場久安但坐哺而屈諾才微祿厚
恩重命輕中謝伏念臣去闕庭三換符竹坐席未煖召節已行
筋力疲於往來日月逝於道路未經周歲復典兩曹朝廷非不
用臣愚意自不安位所宜當遂更冒寵榮此蓋伏遇陛下泰道
正中乾健獨運追述東朝之遺意收此散材眷言西季之旧臣
付之善地致此衰朽尚未弃捐臣敢不勤卹民勞密修邊備苟
无大過以及替年漸还魚鳥之鄉以畢桑榆之景

謝除憲表

郡公濟

支郡分符已慚善政明時持節溢抚祥刑被寵以驚省躬知愧
中謝伏念臣資惟極陋數則多奇在昔先臣再被表輪之召至
於晚進亦叨勸駕之行國史載隱逸之名卿書上經行之選實
推一門之盛事盖出三朝之異恩獨不免於窮途長虛逢於昭
代欲遂掛冠之願未酌結綬之心豈期流落之餘偶被使令之
未惟西蜀忠厚之俗有東魯弦誦之風頤此齊民之浩穰皆自
累聖之養涵山川秀麗初无犬吠之虞固空虛不待雞鳴之
教欲持平於邦憲宜精擇於司存豈容下材輒膺重任茲盖伏
遇○○陛下体天地之覆載並日月之照臨刑无用於三千囚
自歸於四百欲兼容於群聽致誤采於虛名盖本慈矜遠方豈
獨矜於於已推仁心以及物尚於般觶之牛將德意以遣臣敢

悼感賁之馬臣當佩服温厚之典詔奉行寬大之書聞禮傳家
粗有志於他日引經斷獄更尽力於此時

謝除太守表

荆公

稽違詔令經涉歲時先帝登遐既不獲奔馳道路陛下即位又
未嘗瞻望闕庭所憂後至之刑誅敢冀就加於官使雖知龜勉
尚懼顛躋中謝蓋聞因任以責群材原省以通衆志厥或抱能
而可用則雖負疾而見容如臣者逮侍先朝叨官外制捲三許
國雖有愚衷役二隨人但尸榮祿銜哀去位嬰疹弥年望絕龍
光分投冗散伏遇○○陛下紹膺尊極俯燭幽微延之以二節
之嚴付之以十城之重比緣禋祀特有褒封申命曲加因郵傳
賜唯是士風之美素无犴獄之煩又寄託於丘墳粗諳知其閭
里念雖閉閣殆弗廢於承流以此造朝或未妨於遠疾矧息勤
之已迫且遜避之不容敢不少嘗體力之所任祇奉詔條而為
治異逃大矣仰稱殊私

謝再任太守表

西山

奉祠居里每勤北極之瞻遙戡守藩復忝南州之寄甫臨舊服
格布寬條中謝臣聞天道至仁風霆无竟日之怒聖君大度山
林鮮終弃之材韓安国起於徙中柳宗元用於貶所皆為長吏
蓋值明時微臣乏漢唐二子之能陛下守祖宗方年之法昨者
金華之入侍温然玉狄之詢曷嘗因諫以罪人自愧格君之无
術方押彈交上獨亮秋山之愚迨頃有一頌尽洗元城之玷何
嗇於議罰而樂於用息庸見九重之本心不忍一雪而弃物既
班次對又秩殊庭没齒飯疏夫亦何憾建牙作屏則匪所期敢
圖朱幡皂蓋之華仍泣紫冒清源之景念昔先帝付臣此州玩
惕三年不聞善最侵尋半世復見遺民屬當公私凋弊之餘不
勝上下焦熬之急七邑而二為煨燼十室而九之蓋藏禁旅雲
屯軍餉每難於宿飽宗藩日茂俸緡半出於鑿空自省迂踈若
為經理茲蓋伏遇○○陛下道心渊靜德性昭融不以諛說為

愛君故畧臣疇昔嬰麟之讓不以聚斂為體國故取臣平時放
慮之長畀以舊封責其來効臣昔猶將母今獨携孳祿弗逮於
養親志准專於報上抚摩瘡痍奠邦人生意之復还培溉本根
為聖朝元氣之一助

謝降官表

子由

罪大息寬言者未厭官高德溥法所不容尚領真祠實出寬憲
中謝伏念臣早塵近列无補明時下則挫於身諱上則闕於國
體先朝矜其愚陋宥以遐荒前後七年浮沉百死偶真人之御
歷敷大号以惟新普復舊官亟叨厚祿然臣年近衰暮知復何
為身利退藏願未敢請因循於此黽勉自慚雖復追削者五官
仍且獲安於閑局涵息至厚為幸已多此蓋伏遇○○陛下以
堯舜之仁行成康之政衷未忘於旧物恩許畢其餘生臣謹當
杜門躬耕沒齒疏食知生成之難報姑靜默以待終

謝復官表

西山

賢言觸憲宜坐錮於終身身寡流微乃悉还於旧物幸逾始望
息出更生中謝伏念臣昔綴周行嘗誇内直花萼昼日久承寧
考之恩蒼梧暮雲忽洒茂陵之血属際飛龍之運首叨馳驅之
招念非忘身何以報國欲勉圖初政之助庶弗辱先皇之知而
臣泥古陳識乖時變无表盜之慷慨有没黯之驚愚聖君非不
愛言臣自踈於開導國人皆稱有罪上獨示於矜容弗貶潮陽
之八千僅奪罪邑之二百出畫如孟子豈懷悻悻之私在罰若
刘生徒抱拳之意雖欲摩鉢而自效終虞覆玷於孔叢濂頌
恭詔之新尺澤川書之舊秩仍元士班視迹臣間飯珍藜愧苟
偷於簞祿鈞天廣樂恍如待於威顏人皆謂榮臣獨知權此盖
伏遇皇帝陛下聰明天縱聖敬日躋方東朝丕衍於脩齡而南
面躬臨於曠典導民以孝既洽四海之權与物為春忍視一隅
之位釋羈寬於幽安返逐客於囚山爰及顛蒙亦皆牽復臣敢
不淬磨宿志前滌曩愆犬馬之養无他惟篤愛君之義江湖之

身雖遠敢忘在國之心

謝賜禮物

生日謝禮物表

史浩

具官臣某上表臣言伏蒙聖慈以臣年八十特遣使賜臣御筆
溫言褒諭俾臣眉壽又賜臣金器香茶以光慶席臣已即時望
闕謝恩祗受訖者一人盛治正欣仁壽之同濟八秩衰蹤亦荷
康寧之敷錫敢期壽澤遠資慶儀奉白府之珍奇激中荷之感
佩中謝伏念臣起身寒素遭出聖明依乘偶會於風雲遇合適
符於魚水力未施於橫章位遽底於回槐雖景逼桑榆獲遂掛
冠之請而眷深簪履每與當宁之思親札之丁寧歲有生朝
之賜予矧今厚意復示殊恩貂璫飛鞚於川塗翰墨騰光於龍
鳳謂臣浮生之希有又過十春祝臣暮齒之再延俾逢千歲杯
盤羅列益益錯陳率皆粟縷於兼金况乃環裝於百宝分上方
之清馥撥正焙之龍芽額推躬陋之君曷稱便潔之寵茲蓋伏

遇

皇帝陛下乾坤長養父母愛憐自執卷於潛藩覽彙鈞於
初政撫存將異終始弗諭稽古無功已愧於輜車乘馬投閑絕
望載新於龍勺壽尊臣敢不銘刻肺腑精虔香火誓殫微悃祈
歸美於升常尚觀餘生觀疑勳於万一臣無任

謝賜衣表

晁之道

寒律肇開已屆始裘之候皇恩下逮猥頒在笥之珍拜舞以还
曳屣增愧中謝竊以造齊綿楮漢文獨賜於藩臣解錫襜褕光
武第加於驍將未若霈宇慈於列位錯文篋於周行均戴龍光
共深爵躍其惟 皇帝陛下謙光遇下晉書授人布明之德
而衣被四方昭燦之儀而粉飾百度致茲臣竊冒玷恩華臣
敢不盡瘁王家協恭公上庶乘軒之鶴少逃竊位之譏而在梁
之鶴無復冒恩之刺

謝春衣表

葛謙白

青春二月時既迫於載陽丹禁九重衣特頒於在笥錐動曳屣

之愧敢忘衣被之仁拜受省循凌競罔措中謝共惟 皇帝陛下
下緝熙庶政藩飾羣主親御弋綈事每聞於克已寵頒束帛禮
特厚於優賢粲然箱篚之儀溥及簪紳之列臣祗膺禔賜銜荷
湛恩顧影知榮共詫章身之煥不衷是懼深虞濡味之誡

謝賜冬衣表

晁之道

出笥分珍在廷均賜方此御冬之始俱懷挾纊之温中謝茲蓋
伏遇 皇帝陛下子視庶民天臨羣下遇之有禮俾知臣節之
恭豈曰無衣獨資君恩之重臣等敢不力圖其報仰稱所蒙惟
公尔以忘私庶服之而無數

謝賜衣襖表

前人

恩言温厚已驚春律之回賜服焜煌更覓天光之被撫躬甚陋
踴地知慙中謝 臣聞在笥勸賢人思務德解衣撫士衆必捐驅
親逢晏粲之期共載光華之寵共惟 皇帝陛下仁敷動植威
服蠻夷垂衣而四海寧振領而百事卒載御始表之礼爰思無

褐之詩並錫恩榮俾詣安吉審觀戰士已無皺豕之虞深省孤
蹤必獲摩指之願

謝賜衣金帶表

王龜齡

綸言下逮懼器使之非宜恩數有加顧身章之弗称退量僥冒
彌精兢慚中謝伏念臣性姿蠢愚世閱寒瘁獨遇盛明之日亦
晞奮厲之規設竊儒科固是青蠶舊物推遷仕牒徒驚華髮隨
顛依造化之大鈞之毫釐之小補越從鎖闥擢實憲臺圖浪滯
之無繇服榮寵之若此雖將自竭曷報所蒙茲蓋伏遇 皇帝
陛下軫念臣工修明典禮示等衰於百執致藩飾於羣倫既厚
匪頒俾有曳屣之煥曲形尉籍終逃負乘之譏仰戴生成敢忘
糜頌

謝賜玉帶表

王介甫

臣某言伏蒙 聖恩以收復熙河洮岷疊宕等州特加優諭親
解玉帶賜臣者尸臣列侍方臨極辨之朝誓御瞻傳獨拜非常

之賜寵綏狎至懇避弗俞焜耀有加凌兢無措中謝竊以河冰
之業兆自聖謨方虎之材進非師錫片言投匭遂察見其有孚
衆訛盈庭預照知其無背以至授兵筭食菟卒第功能畢協於
始謀實仰歸於獨斷如臣曩爾何力有焉伏惟 皇帝陛下善
貸且成勞謙不伐弛曠瘼之大責錄將明之小忠揚于廣除委
以珍御瑟彼英瑤之質煥乎華衮之言臨授用光顧榮踰於古
昔浪藏唯謹知燕及於雲來施更厚於解衣報敢忘於結草

辭表

辭免左丞相

周丞相

登備鼎司久當策免晉持魁材修奉庭揚顛天伸不稱之詞伏
地拜弗俞之詔鴻私溥博孤迹凌兢中謝臣聞受材有洪纖賦
質有良竄扶明堂者資梁棟安用條枚薦清屆者須鼎彝寧參
瓦礫力不勝任人將汝瑕伏念臣根闡材微斗筭器小際會光
華之日追陪寅亮之睽罪功宜詔賞誅湯无可否賢鄙當明

陟殊惜抑揚觀已事之如斯豈後圖之足責敢謂群賢之進濠
叨上宰之除有次輔雖不備官理焉何損无成勞亦令賜位臣
也胡顏為國計以牢詞非身謀之獨審伏望○○陛下謹於國
任監乃知難外求岩穴之英內選朝廷之雋俾居三事庸長百
寮議于及股伯俞敢忘稽首有若闕天號叔尚助迪威從欲之
仁鞠躬以後

辭免右丞相表

劉丞相

政地充負未即國功之譴昕廷出命忽陞次輔之聯念南控於
危東息濠回於泚聽寵非素望義合終辭中謝臣聞人主之取
論相以為先邦家之基得賢而後立上稽于帝下逮有唐或都
俞吁咈以成謨或輔替弥縫而蔽用皆極天下之選用圖治績
之熙爰及皇家益難柄任取諸人望不愈於商周播在吉詩又
何殊於夔契中興而後鉅公相望間闕成祀夏之功右左大格
天之列書于簡冊光若日星仰惟真寔之朝尤謹疇咨之始未

聞僥冒有若踈愚小有材而登庸堂奚堪任重遠无慮而等帷
幄烏可責成伏惟○○陛下太廟皇圖深為國計奮庸而宅百
揆宜先四岳之詢寬亮而弼一人當遴二人之選不容輕授庶
協公言

辭免參政表

荆公

才薄望輕恩隆責重敢緣聰聽冒進忱詞中謝切以建用宗工
与圖天政以人賢否為世盛衰矧休運之有開須材偉而為輔
豈容虛受以設明揚如臣者承享未優知方猶晚先朝備位每
懷竊食之慚故里服喪重困采薪之慮陛下紹膺皇統俯記孤
忠付之方面之權还之禁林之地固已入言之可畏豈云國論
之可知敢被寵臨茲懷媿恐伏望陛下考慎所与燭知不能許
还繆恩以允公議庶少安於鄙分无或累於聖時

辭免樞密表

汪彦章

入參廟筭方俟黜幽進長樞庭更叨圖籍仰荷褒揚之過實深

盈浦之憂敢布腹心仰干旒冕中謝切以聖王之用人也必量
其材之所至忠臣之事上也先度其力之所宜故為之上者廢
傷知人之明為之下者得逃隔取之累一失此道兩乖厥宜如
臣者初乏經綸特緣遭遇二紀服周行之未一朝居多士之先
昨叨近弼之除已過平生之望豈有方更於晦朔居然躡次於
鈞衡雖至无知敢忘自揆伏望皇帝陛下以隆寬尽物以獨斷
取臣知愚誠蓋出於由衷於成命何嫌於反汗別求賢佐其圖
宏濟之功毋使孤踪益重疾顛之病

辭免起復表

王黼

苦塊餘生已瀆死所絲綸渙号俾復書班敢使存臨德音下逮
呼天号絕附已驚迷伏念臣早偶家艱專承母訓零丁孤苦貌
尔无依鞠躬提携迨夫有立寅緣際遇玷冒高華犬馬之養未
伸風木之悲累至攀号泣血摧踊殞心仰賴聖神之恩甫終窀
穸之事几筵是奉墳土未乾痛深陟此之瞻恨未及泉之見敢

謂宸衷念舊優詔奪情蓋二年免懷通喪者聖王之制而踰月
視事交禮豈治世之風雖眷二之殊常豈私情之所忍伏望○
陛下推孝恩而錫類填宰柄以收臣念哀苦之方深况衰疲
之已甚報親日少願終制以為期事因時長頤捐軀而未晚

事文類聚

卷之六

庚集

新編事文類聚翰墨全書卷之七

庚集

官職門

太師太傅太保中占三公各漢魏秦以丞相
御史太尉為三公後以三公同馬三公同
空為三公復置師保在三公上
大元新制大傅太保太師為三公
空為三公百僚庶尹多仍舊貫
新制並隨各類以見覽者詩焉

三師

太師 太傅 太保

事實

大師

帝師漢爵為國均詩尹氏太師維周冠三公首帖

為四逸之儀為百辟師韓愈賀裴度詩道之教訓

賈誼傳師為之垣墻詩大師維垣大師父師書畢命王

今予祗命公以周公之事惟壽杖帝賜大師若曰公正色率下罔不祗師言令母朝

正色在朝顏真卿為太師全德始終裴度拜太師事四

賜璽書守之重帝傳增其道以經術蕭望之儒宗晉

文彥博貌隆重而平居謙抑國老漢趙熹為太師傳之德

大傳帝傳義賈誼傳道以經術儒宗晉

大傳朝野德傳沈約詩灼二更賜几杖車馬茂名冠天下

以茂為大如賓明帝以都馬元功進太師進見東偉人魏

代為大傳明帝曰號退傳宋張士遜請老就拜太師退閑

杜門韓世忠以力求奉朝請秦檜主和

大保輸翼保其身體賈誼導以德義通典保衡太

時則有若言天下保奭書公曰其波克教

營訓王武王時大公為保置七官晉王祥為太保

三司上魏以鄭中為太同日降制宋司徒平章事王旦

三公總事太尉司徒司空

三公三師為六典後魏尊太師太保九命周禮

論道書二公議政漢書三公天柱天文

台階後漢郎韻傳三公泰階漢書三公鼎足

三公者象調陰陽典天地說死三公面槐周

外親三公夢松丁固生腹國棟梁高柔傳公輔

腹心師用秉日夫三師傳保成王幼時乃公為太師周

魚服象侯揚震有冠雀植槐王文正公曰父祐器

公謂曰明府當作法三台也後至三公

晉諸葛亮為臨今使亮植槐王文正公曰父祐器

公謂曰明府當作法三台也後至三公

公因手一三
於庭以為識

大尉

鵠印得金一曰忠孝侯印顯見一墮地化為石推破
大尉鹿輔漢鄭弘為太守行春有兩鹿夾轂而行至
尉太尉為武階首我畧居置太尉居執政次宋太尉為武選

弘為太尉為武階首
度使之上與丞相等
通典景帝置太尉
金印紫綬秦時
尉武事齊太
玄衣纁裳晉制郊廟太尉冕服七章職九伐曰太
尉故司馬之官
主五兵秦置太尉
星在杓南天文錄三公

若今之象也
安劉可令為太尉後呂氏作亂勃入北軍
曰為劉氏者左祖
有史魚風中帝詔曰李固忠正不撓
軍皆左祖遂誅呂

地官周禮農父
若保掌民數那司徒建
周人九州地城
教人倫堯使契為同掌邦教司徒
典授兆民教五和民則敷五典式一司徒弘敷五教書帝曰契

司徒

敬一在寬修六禮
七教與民德齊七政以所
教中和司徒
以五禮防萬民之情而教之
善職周司徒公父子並為
以六樂防萬民之情而教之
善職周司徒公父子並為
人宜謀謨惟幄
光武拜鄧禹為司徒禹與
之
謀謨惟幄
光武拜鄧禹為司徒禹與
王室
袁安為司徒每朝會
清鑒
照明鏡指李光弼也
退讓之臣
宋宰相呂夷簡
詔特守司徒三表懇讓上

宏父
司空也
司域宋以武公之諱
掌玉周官
民時地利
居民
量地遠近與事任力別五土
家語孔子為司空
理坤和乾
通官解話下
平水
之性物咸得其所
在功臣右
大司
空

儒者為祭
為司空
帝臨辟雍拜伏恭
以清行稱
宋弘為大司
九族家无貴
儒雅
晉張華拜司空
風力肅明
宋除文
司空制曰
平土之司
又除呂公著守司空制

司空
器質板傑
平土之司
又除呂公著守司空制

儒雅
晉張華拜司空
風力肅明
宋除文

風力肅明
宋除文

宋除文

宋除文



尚書省 尚書令 中書令 中書省 行省



都省 北齊尚書省謂之中臺 唐龍朔二年改尚書省為樞機六典尚書百官 疾舌 李因疏北斗天之

之三公上 在尚書位 典樞機 騎將軍領尚書事 錄事 後漢章帝 密而自署 三公絕席 會與尚書有 都堂居中 唐制尚書省 錄名自喜始後制遂以為常 都堂居中 唐制尚書省 司堂東西凡二十 四司分曹共理



端右之職 晉書詔曰 總百揆之得 夫管王政之開 端撰之官 漢光武天下事皆上尚書 乃 敷奏萬幾

隋志尚書掌出納 總任百揆 屬成子才謝表 出納朝政 王命 晉起居注百揆之百 憲範王猷 謝右疏 權歸尚書 摠度機斷 憲範王猷 謝右疏 權歸尚書 光武親摠吏職 正一品 五代累朝升尚書 專席而



坐後漢尚書令 王摠領紀綱 與司隸 明習故事 漢侯霸為 初廷少高臣 直言 申者剛 為尚書令 賽 慎選舉 左 伯豪為尚書 天下皆 長中臺 宋除呂蒙正尚書 僕 於中樞 朝廷紀綱 盡歸於會

鳳詔 宋謝莊 諫中書 總機要 陳以中書 分二十一局 命 啓 職 之中書 令 總機要 陳以中書 分二十一局



內史 周官 掌王 宰相之職 隋中書令 為侍中 知紫微 令 唐開元改 令 公重 之 不 名 稱 為 功 第 一 為 中 書

令 弟 一 班 二 十 四 考 郭 子 儀 為 中 書 令 一 進 金 鏡 錄 九 獻 珍 異 推 九 齡 天 長 節 百 官 多 使 相 宋 中 書 省 正 一 品 以 之 開 國 舊 勳 宋 國 初 官 制 未 定 異 姓 未 有 兼 中 書 令 者 加 中 書 令 再 四 懇 辭 上 手 詔 曰 惟 卿 一 人 母 自 固 避

加中書令 再四懇辭 上 手詔曰 惟卿一人 母自固避

中書

右曹 漢官儀中書為西掖前徽省唐開元改中書
藥階 謝玄暉直中書省鳳閣中書曰龍池

下伯玉中書郎西臺 唐龍朔元年改宣奉命令宋中書省
詩驛麟鳳 凡丹力革廢鳳凰池 通典中書省在樞近多瑞

置及內外取旨之事 柳元年上車駕還京其樹再禁人謂之死因元萬年枝 暉直

中書省詩紫殿肅陰二形庭赫 弘敬風動 華承露掌

柳元年上車駕還京其樹再禁人謂之死因元萬年枝 暉直

行省

行臺 魏晉謂之大 外省 隋隨其所管之道置
理牧守 留卿為行臺欲理逃民免扛 宣勅術曰有

王佐才 蘇綽為周文帝行臺郎中僕射周慧南稱其

機密 隱若敵國 顧氏家訓 長道將士鎮疆場 州行臺左 鎮東都

屈突通判陝東道行臺左僕射時從討王世 充有功拜陝東道大行臺右僕射

宰相

左右丞相 平章 左右丞 參政

左右丞相

台相 後侯霸論中以後鼎臣 姑載集此佳佳等元
老 唐元宗謂宋景卿 良弼 高宗夢帝資 宅百

揆 舜典帝曰有能奮庸熙帝 總衆職 為丞相 領 宅百

意 調元 書變理陰陽 詩一氣 輔德 說命以 白麻 幸相

制 沙堤 唐故事宰相行此名 後載 秉鈞 詩 國 當 軸 車千

居 紫綬 前百官志 承 黃閣 所事 閣 日 相 廊 廟 古詩 大 厦

庸 非 舟楫 後見 岩 廊 握 右 議 政 宗 命 相 先 告 之 曰 相 也 太 子

至 非 崔琳 琉瓶 書 姓 五 代 唐 發 帝 釋 相 書 清 天 以 筋 挾 之 首

日 非 崔琳 琉瓶 書 姓 五 代 唐 發 帝 釋 相 書 清 天 以 筋 挾 之 首

得 盧 文 紀 補 衮 詩 衮 戰 有 關 之 阿 衡 詩 實 難 一 蕭 曹 丙 魏

欣 然 相 之 補 衮 詩 衮 戰 有 關 之 阿 衡 詩 實 難 一 蕭 曹 丙 魏

為 丙 吉 贊 高 祖 開 基 一 有 聲 房 杜 姚 宋 輔 弼 獨 前 稱 一 後

稱 一 元 愷 相 韓 詩 元 愷 承 華 勳 尹 右 虺 左 伊 一 居 一 仲

一居置左右高宗命傅說作相一諸若歲大旱用汝作

一秦始置也昭哀始以樗里疾甘茂為左右丞相一統百官均四

一蕭曹畫一之曰何薨參代為相一曹參代之守

一勃右平左文帝時周勃一為一歲決獄我何

一開閣延賢公孫弘以弘為相於是起客館

一侯內佐天子理陰陽順四時下遂萬物之宜外鎮四夷諸

一以待大賢次曰翹材館以待大才次曰接士館以待國士

一將軍中二千石者居翹材館躬自菲薄俸祿皆以給之丞相封

一侯相制常以列侯為相唯公孫弘登同心輔政法魏相為

一之相嚴毅吉能濟以寬知大體丙吉出逢死傷撲道不問

一吉曰民間傷京兆尹當禁捕方春牛喘此時氣失節憂漢

一思職丙吉駭吏出見驛騎馳赤白囊歸曰狀乃東明經位

一宰相故諺曰黃子黃金蕭蕭不如教子一經有威重王

一單于前拜謁大畏之天子笑曰真漢相矣中經開誠布公先

一約官職為丞相桓彝見導極談出世事還同心濟謀皇閣制度盡

一物率杜如晦房元齡二人討裁如晦長於帝與卜植偈

一太宗用玄齡如晦時紀綱周弛而能之之蹟速不可見為救

一令典刑察然同不全然求所以致之之之蹟速不可見為救

一時相管晏辭曰公可謂曰余為相可出何人又曰何如應

一交守文姚崇善一以成天下之務宋景善一不負天

一子陸贄為相或謂其規諫太過對火城大朝會百官已集

一宰相方至至則衆皆城以避之東垣李季博注大

一為上相薦賢助國李吉甫執政謂裴相曰比日人物

畧疏二十許人吉甫藉以薦于朝天用論語宋趙韓王普

下稱得人半佐太祖定天下半佐陛下致太平普每朝退

臣一則取闔戶自落一篋取一書讀之雖家人不測及普日出

則見是事矣後普薨家人開用讀書人太祖嘗曰宰相須

讀書普晚年真宰相太祖謂左右曰朕聞范質居人以爲

手不釋卷錄宋初宰相最少年者惟王大雅王文正公曰居

榮歸田錄宋初宰相最少年者惟王大雅王文正公曰居

天下見愛惡之迹薦人不知王文正公所驚曰將相之任豈

可求邪已而除準武勝軍司中書門下平章事奏水旱盜

賊李沆爲相日取四方少年當使知四方艱難不然血氣

方剛不留意声色則士少年當使知四方艱難不然血氣

木曰以禱祠之事作矣不用新進先真宗嘗問沆治道所宜

喜事之人此最爲先帝深然之入不微龍澤相二入中書未

嘗以姻戚夾袋疏賢呂文穆中問其有用人者隨即之

朝廷求文武百官各稱職公大忠淵之幸能左右太子不

爲相文武百官各稱職公大忠淵之幸能左右太子不

謂之天下無地樓臺魏野上寇萊公詩有清白宰相杜衍

如山天下無地樓臺魏野上寇萊公詩有清白宰相杜衍

謂之天下無地樓臺魏野上寇萊公詩有清白宰相杜衍



平章事 參決重事 取官分紀宋王外至者令

共議大政 量胡廷有大政即中書門事先平章

始於唐 唐太宗貞觀八年李靖爲中書門事先平章

太宗用宰相臣天下皆爲天下重輕四年數引疾不任

謂之平章事 皆爲天下重輕四年數引疾不任

事認進司徒平章軍國重事度操守堅正閱表得名宋璟

既有功名震四夷用不用常章抗日朕常記其良操今為

欲用張嘉貞而忘其名夜召章抗曰朕常記其良操今為

此方大將姓張而復名卿為我思之夜半因魏文臣奏表

遂為同平章事人物第一唐李揆同平章事帝曰卿門地

之羽商量政事鄭潭以疾乞去位詔以五官而不名拜檢

校司空同中書門下平章事佑平決國事宋天禧中王文

海進見天子尊禮之曰一期遇軍國大事不以時入參決

公懇辭不拜慶曆初台文靖公亦以首相求罷拜司空平

章軍國事與樞密同議慶曆二年詔丞相呂夷簡每有軍

公辭之東都事畧文彦博召赴闕既而御史中丞劉摯左

尊老成正言朱光庭右正言王觀俱上言彦博春秋高不

可為三省官可與公又言若令以正太師平

章軍國重事亦足以公矣遂下制如公言

左右丞 左網前命崔從孫授承旨尚書左丞制云吾右轄

同管轄唐劉洎上疏曰八座比網維戴胃拜右丞

日尚書省天下肅二臺晉劉瓛為右丞正宗

網轄之地章弘景拜左丞居機密之會晉傅咸為右丞

八座以下居減丞之二各四丞光武始減具二唯置左右

承掌錄文左君右君丞白廉察諸曹晉荀勗為

書則會八座以下臺閣自肅晉傅咸為右丞

比則月憚之除尚書左丞令吏七百一人見明習法令

並記姓名肅機唐肅機元年改左右丞曰得舊儒

韓蜀見於肅機唐肅機元年改左右丞曰得舊儒

濟詩左其類唐位今年咸亨元年復舊名得舊儒

相門草氏在經術漢臣須付以右轄宋哲宗劉摯尚書

然國是以定朕欲試其行事之實是用省轄之重

表願備以望三事之餘光才短力罷莫能起六臨之滯論

參政 貳台衡參相府一表一參鼎實柳子厚代謝表

贊國鈞歐陽脩謝表一貳參朝政後魏古弼為

綜朝權晉殷浩為建武將陪宰席制權

貳黃

樞宋陳希烈制黃樞武職侍講預討謨楊億代表黃樞押

金華紫府引真參謀王鉉麻淳熙王堂雜記凡文臣職事通直參政以上盡赴文德

印宋至道元年詔自今參知政事宜與宰相輪日參四輔

之班楊億謝表知三省之事官制舊典近詔復置參知

參聞政本唐李靖制宜幹樞近象崔湜為宰相謂陸

遂並知擇官為副宋乾德二年太祖已相趙普與其寺將

政事下丞相一寺有何官對曰唐有參知機務參知政

事今可用之遂命薛居正呂餘慶為參知政事

器得嘉賞未嘗直遇抑挫未嘗推一日呂公奏事風範端

疑李沆嘗待宴太宗曰送之曰李沆知無不言唐質甫

參知政事與前列論政事未嘗阿諛一日語諸子曰吾備

位與宰相均張方平除參知制日坐斷期堂之論上許元

多與宰相均化以調四時下管至化以澤萬類近則辟元

仰首以承德遠則殊俗交臂真宰相才事當奏事切直太

以待命蓋一之職業一真宰相才事當奏事切直太

宗怨起執擊帝衣復坐事也魚頭公魯宗道為參政忠頗

乃退太宗曰此也思嚴固老開談魯宗道為執政營一小室

蓋以骨鯁退思嚴固老開談魯宗道為執政營一小室

許朕之裴度知政事文彦博請行上放進安之凱旋除平

章事及見上勞之議無不盡政事公升參知政事面

手詔召對條事平責之又開天章閣召見賜坐授以紙筆

省屬

左右司郎中負外郎

都事

右司掌總察兵刑工三部受事付事各部受事付事左司掌

物察吏戶禮三部受事付事各部受事付事各部受事付事

事其屬有祇候郎君管勾官印選曾南豐擬制尚書

左右司郎中負外郎

都官唐書二十四曹呼

宰屬

印選曾南豐擬制尚書

職承貳唐職官六職年稽違署董六曹四朝志正

六曹之事而幸總八座張鷟効左司郎中許鑑云位得列

正文書之規失總八座宿爵第通班百官紀綱初志

要務三公侯古肱掾屬三公天子之百官紀綱初志

選事九國志王潛為左司郎中時喪亂之後官

相吳倫選有隋置左右司通典場帝二年尚書都司

從五品掌立昆散裳隋置左右司郎中宋改曰五旒中服章

都省之職以詳整稱唐武元節左司郎中詳宣邦教典

兩梁冠以正邦理元豐始有職掌中興題名

為階官正呂實左右司分治除孫齊制都

事无巨細畢陳于前若編較之曹功過續會要宣和

在細燕之則與弛之則嚴較之曹功過年臣察疏神考

肇建中臺分六官而設之屬御史糾其違復令都司

其功過令文左右司歲考一即官治狀以功過對所

安國制曰習臺閣事道及制都司紀綱之地非李為宰相

宋烈曰二年三省進擬右司高宗曰左右司不可

可不謹擇神宗聖訓云左右司是

本尚書吏職令史前後官也知都臺事晉尚書都

承總秩二百石史尚書臺令位七品上唐置六

絳朝服晉百官表注都令史朱衣執板魏晉宋齊正

皆有品秩側坐比齊尚書郎判事正坐都有國士風趙孟

舒補尚書都令史善以郎中補西在任專李

於請談一之

臺官

御史臺 總御史 御史大夫 中丞 侍御史

治書侍御史 殿中侍御史 監察御史

都事

粉三等中臺都司除張康國等制曰左曹除

大司空一無以易堯周昌為御史大夫印弄之曰誰可為御史大夫者

遂親遊堯曰大夫天子忘食張湯為御史大夫每朝奏

位而奏去副封發之及魏相為御史大夫一日副領尚書符先

正色立朝唐李景深為御史大夫不臣王公以防壅蔽

韋思謙為御史大夫見王公未嘗屈曰耳避路儀唐制大

自官固當特立鳴鶴為御史大夫豈眾禽之偶乎唐制大

前後三刻出回辟宰相如前出宰相回辟大夫中丞

中丞 **憲長** **臺丞** **獨坐** **蘭臺** **有內丞** **臺丞** **臺丞** **臺丞**

黑綬南史宋中丞銅印進賢服絳鞞南史宋顧延之為

白簡深刻石室裁必書周職屬蘭臺官志中丞在殿

秉國憲傳威中丞鷹揚虎視肅清違慢有內丞史大夫

中丞為御史中執法臺率武帝時以中丞長司隸司隸督

刺史督二千石下至黑綬及御史大夫轉為司空而中丞

出外為哀帝更中丞為御史長史光武復改中丞

執法殿中西漢薛宣為御史中丞青儀囊系中丞給威儀

冠絳情執百官避路省中丞函簿至不得復入尚書太微

四星天官書南得直司體魏鄭鮮之中丞執憲正

繩直筆晉周處為中丞奏石崇王老虎晉崔鴻為中丞明

号為近世獨步梁江淹字文通為中丞彈中書令謝眺等

今日可謂臺省圖形省其形於中丞寫為勁古置烏衣

南史王僧虔為中丞甲族由未多不居憲氣貌孤峻崔從

臺僧虔為此官乃曰此是南憲沈約彈表不以恩假人

裴度為中丞自用從自代南憲奉戰不以恩假人

宋杜衍中丞自宰相而下思讀仇士良傳豐稷為中丞宦

書上殿為上清仇士良發行彈新參王介甫初拜參政呂

上曰已論稷為不向讀畢彈新參王介甫初拜參政呂

同也溫公密問曰今日欲言何事獻可曰王安石石雖有時名然

好執偏見不通物情在侍從或可容置之政府則天下必受其弊此乃腹心之疾厥可緩邪未幾介甫變法百姓騷然温公退居洛陽每白呂獻可先見予所不及

侍御

臺端唐四人侍御史號一柱下冠一名柱後以鐵為侍御史常乘一車殿一車殿一車殿一車殿

憲王仲連制並服朝廷肅然嚴延平王立宣帝延平効奏霍光寺寂立无人臣禮奏埋輪造八使按行風俗網

車一於洛陽都亭曰豺狼當道安百僚敬憚

呼為京尹避道唐故車戶遇侍廣聰明史制云御史吾耳

庶明臣節侍御之職有六二日三回二日西推四日東推

五日賦蹟法星劉禹錫送楊侍御歸朝詩騰落温御史

六日理賦法星驚鳥得秋氣一騰大曼騰落温御史

治書

主文書秦時張蒼為卿明法律後志治書御史二

尚書二日之備顧問魏我中今乘輿臨堂及諸處視事則

青囊盛印向思澄自廷尉子治書侍御史車前儼然正

色齊王騎發押近小人知命奏効百僚震栗時人稱量

殿內

殿內侍御史副端唐殿中侍御史彈柱外唐侍

在表殿察陞測非側陞而坐掌供奉唐殿中侍御史

張庭一正班列位唐志失列言蓋不肅則罰之戴黑家中唐朝

會則乘馬升殿用紫褥唐殿中得立五花磚簪白筆中魏殿

御史當大初會御史舊時養筆以奏不法今右補位但晚筆耳

供奉赤墀上官位宰相時以雍州司士章綽為殿中

武夔龍龍羽鶴鸞不避威權唐劉炫謂張行成體局方正

豈辨州判佐比乎太宗謂交終曰若綴供奉官班成二年御史官室

行成朕自幸之无先容也綴供奉官班成二年御史官室

奏每遇入尚日欲依常制差殿中侍御史一負甲謂面

鍾鼓樓位各一日欲依常制差殿中侍御史一負甲謂面

臺官皇祐中孫并幸吳中復或曰公平生不識中復何由

遂除殿中鐵面御史勉不避權侍京師為殿中侍御史厚

章十八上門呂海為殿中侍御史彈劾无所避公主夜扣禁

望論陳并之交結中人請后還政即位遷殿中侍御史

皇太后同听政上疾平上疏太后遂還政而遂守忠瑞獸

任守忠有甚語公又上疏太后遂還政而遂守忠瑞獸

宮鳴柳宗元詩憲府初收亦開嶺其

監禦松聽因話錄察院諸行各有名會昌初監察御

隸六學宋許言事上曰今既分一又許隨事庫奏糾百司

宋監察事小事則幸正大事則糾劾珥筆升朝陳子昂集

庚集二